

白神通信

藤里森林生態系
保全センター

令和2年5月25日

No.92

～秋田県側白神山地より



令和2年度！新体制での
業務をスタートします

エゾノイワハタザオで吸蜜するスジグロシロチョウ類（有本）

今年度もよろしくお願ひします



令和2年度をむかえ 所長 谷藤 忠志

少雪と言われた冬がおわり白神山地にもいよいよ春のおとずれが聞えてきましたが、3月から4月のあいだに低温の日が多かったこともあり、木々の芽吹きは例年と同じような時期に始まりました。また、この低温のせいか各登山口へアクセスするための林道上にはまだ所々に積雪があり、通行不能となっているところが多くあります。さらに、今年度は新型コロナウイルスの流行に伴う緊急事態宣言などにより不要不急の外出自粛が求められ、登山についても山岳関係団体からの自粛要請などがあつたり、白神周辺の市町村では観光施設が休業したりと、いつもと違う雰囲気の中白神山地となっています。当センターでも新型コロナウイルスへの対応のため、予定していた森林

学習の延期やイベントについては開催を見合せているところです。

白神山地の動物や植物は今まで過ぎてきた年月と同じように今年も春を感じとり、活動を再開し種の保存を図ろうとしています。当センターでも中・大型哺乳類調査、巡視管理棟や展示施設の施設管理など今まで続けてきた活動のなかから、今できることから業務を始め、継続しようとしているところです。

人と接する機会が少なく、いつもと違うスタートの新年度となりましたが、この新型コロナウイルスの流行が早期に終息し、白神の森に再び沢山の方々が訪れてくれることが待遠しい春です。

津軽森林管理署金木支署 齊藤 俊介(転出)

4月1日付けで津軽森林管理署金木支署に異動になりました。

着任した際は、慣れない業務で不安でしたが地元や関係機関の皆さんに支えられて頂きながら世界遺産である白神山地の保全・普及に携わることができました。

また、藤里町は初任地で思い出深い町です。機会があつたら岳岱などに遊びに行きますので見かけたらお声がけください。2年間お世話になりました。

Thank you for everything!!

New face!!

一般職員 鈴木 千裕 (新規採用)

4月から新規採用となりました、鈴木です。社会人1年目でまだ右も左もわかりませんが、少しずつ一人前に近づいていけるようがんばります。よろしくお願いします。

写真は家の窓から見えたニューナイスズメです。私の出身地では見られなかった鳥で、こんなに身近にいることがとても新鮮でした。自然豊かなこの土地で、これが

たくさんの方の知らない虫や鳥、動植物を見つけていけたらうれしいです。



生態系管理指導官 山内 武文

生態系管理指導官の山内です。世界自然遺産白神山地の保全管理に向け、巡視員の皆様や関係機関、関係団体と連携し、効果的な巡視活動が実施できるよう取り組んでいきたいと思っております。これから融雪が進み、登山や山菜採りなどに出かける機会が多くなると思いますが、体調管理には十分注意をするとともに、自然には様々な危険が潜んでいますので、足下などに気をつけながら楽しんでください。最後に、今年はフジドリシジミに出会えたらいいなと思っています。

専門官 有本 実

当センター勤務3年目、前任地の津軽白神森林生態系保全センターから白神山地に関わり始めて6年目になりますが、未だ山に分け入るたびに「この洞はムササビのねぐらだったのか」「ここにこんなランが着生していたとは」等々、見落としていた野生動植物の多様さに気付かされます。なかなか外出し辛い今シーズン、哺乳類調査等の際に撮影した動植物の写真をこの誌面上に散りばめて、読者の皆様に白神山地の季節の移ろいを感じていただけたらと思います。

専門官 小林 あずみ

センター2年目を迎え、この4月より有本さんから、この白神通信の編集を引き継ぐことになりました。白神山地の魅力いっぱい、「どんな仕事をしているかわからない」とよく言われるセンターの仕事も楽しく紹介、コロナの影響で stay home している方々へも季節の移り変わりを感ぜられる、読んで楽しい誌面を目指しますので、よろしくお願いします。

フジドリシジミ

フナを食草とする
森林性のチョウ
6月のフナ林で会えるかも





中・大型哺乳類調査開始

白神山地では、毎年環境省と林野庁でセンサーカメラによる哺乳類調査を行っています。『白神山地世界遺産地域モニタリング計画』に沿って実施しているもので、当センターでは白神山地周辺地域の秋田県側に合計30台設置し、4～11月にかけて毎月1回データを回収してどんな動物が何頭写っているかをカウントしています。昨年の調査結果は当センターHP



カメラのデータ回収作業。足元には痛んだカタクリと咲きかけのニリンソウがちらほら。

に、『白神山地世界遺産地域モニタリング計画』の詳細については【白神山地世界遺産センター西目屋館＞調査研究・モニタリング＞モニタリング計画】に掲載されていますので、興味のある方はご覧下さい。

毎年継続してデータを蓄積することにより各種の個体数の長期的な増減傾向が把握でき、上記モニタリング計画に基づくその他の調査項目の蓄積データと照らし合わせることで、白神山地の森林生態系は

“何が原因でどんな変化が生じているか”、“そのためにどんな対策を取れば良いのか”が見えてくるのです。コツコツ継続しなければならない地道な調査ですが、この世界遺産を後世に引き継ぐためにはとても重要な科学データになります。

昨年度は30台設置したカメラのうち、低標高地に仕掛けた11台を11月以降も冬期ニホンジカ(以下、シカ)調査用として稼働させ続けていました。

今年初めて気付いた

早春のキノコ
シロキツネノサカズキモドキ



ちょうど見頃のオトメエンゴサク



今年度の中・大型哺乳類調査はそれら11台のカメラのSDカードを入替え、哺乳類調査用に撮影モードを設定し直す作業から取りかかりました。4月7日に八峰町小入川地区から作業を開始しましたが、周囲に咲くカタクリやキクザキイチゲは痛み始めていて、オトメエンゴサクやユリワサビは見頃、ニリンソウがすでに咲き始めていました。昨年度の異常な暖冬少雪の影響でしょう、開花時期は例年より2週間程早い印象を受けます。

さて、皆さん気にされているシカですが…冬期間も稼働させ続けた11台のカメラのうち、4台から合計8頭のシカ(♂6頭・性別不明2頭)が撮影されていました。また、本誌前号掲載『ニホンジカ冬期食痕調査』では、合計49地点の食痕サンプルを採取し、そのうち4地点の食痕がシカのものであることが判明しました。北から順に、①『道の駅はちもり』付近のチマキザサ ②御所の台付近のヒメアオキ ③水沢ダム付近のチマキザサ(①～③は八峰町内) ④能代市二ツ井町富根地区のヒメアオキ。これら4地点は昨年度冬期間、一時的にでもシカが滞在していた事になります。中・大型哺乳類調査のカメラももちろんシカ監視の目になりますが、もし白神山地周辺でシカを目撃されましたら、ぜひ当センターへ情報をお寄せ下さい。(有本)



オクトリカブト(猛毒)とニリンソウ(美味)の混生
要注意!



11月22日、梅内林道(藤里町)で撮影された
カメラ目線のオス



1月22日、ここで採取したササから
シカの陽性反応が…
画面奥の建物が『道の駅はちもり』

県道西目屋二ツ井線（一部）開通！～岳岱自然観察教育林へ



5月20日、秋田県側白神山

地だけだの代表格ともいえる「岳岱自然観察教育林（以下、岳岱）」方面へ続く県道西目屋二ツ井線の長い冬期通行止めが一部解除されました。昨年の通行止め解除は5月10日だったので、例年より10日遅い開通です。開通日当日、あいにくの雨でしたがセンター職員総出で岳岱へとやってきました。少雪のせい
か開通日がいつもより遅いためなのか、雪はほぼなく、岳岱の代名詞であるブナも春の萌黄色もえぎを通り越して、初夏の雰囲気をもと新緑色に変わろうとしています。

到着してまずは、歩道の点検。倒木を除去して、木道の破損状況、頭上落下物（枯れ枝等）がないか、途中おいしそうなエノキタケを見つけながら確認しました。あとは多目的展示施設の冬囲いを外し、床や明かり取りの窓もきれいに掃除、展示物も新しい物を設置して作業完了！コロナの影響が大きいなか、なかなか遊びに来てとは言えない状況ですが、近隣の方はこの息詰まる状況の息抜きに、遠方の方はまた落ち着いた頃にぜひ一度見に来て下さい。

岳岱自然観察教育林



ブナの巨木や苔むした大きな岩が転がり、白神山地世界自然遺産地域内と同じようなブナ林を気軽に楽しめる場所。林内では、白神山地のブナ林に濾過された超軟水のわき水が沸き、樹上に産卵するモリアオガエルをはじめ、季節ごとのブナ林の生態系を垣間見ることができる。



表紙のチョウ

表紙の白いチョウを見て、「モンシロチョウ」だと思う人は多いのではないのでしょうか。実は写真のチョウ、モンシロチョウではないんです！童謡でもおなじみのモンシロチョウは、人里に近い平地～丘陵地にかけてのキャベツなどアブラナ科の植物を食草として発生するチョウで、山奥にいるのは全て別のチョウ。写真は、「スジグロシロチョウ」か「ヤマトスジグロシロチョウ」。同じシロチョウ科モンシロチョウ亜科に属するチョウで、2000年代の研究で別種だと分かったのですが、見分けるのはかなり難しいのだそう。ずっとモンシロチョウだと思っていました…。(小林)



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3

TEL: 0185-79-1003 FAX: 0185-79-1005

